

長岡市立劇場開館50周年
みんなのステージ俳句・にこにこ川柳コンテスト結果

〈応募数〉

総数 3、494句

俳句部門

一般の部 1、963句

小中学生の部

361句

にこにこ川柳部門

1、170句

〈選者〉

俳句部門

俳人・夏井いつき

にこにこ川柳部門

新潟お笑い集団NAMARA・高橋なんぐ

〈選句結果〉

(順不同・敬称略)

【俳句部門 一般の部】

《最優秀賞》

星役も樹も眠そうな聖夜劇

原 峯子

《優秀賞》

シンバルの最後の一打夏の空

月野うさぎ

山笑う祖父の率いる音楽団

久保田凡

息と目を合はす転調あをあらし

葉村直

指揮台に薔薇やアンコールはビゼー

岡 一夏

繰り返すメロスのセリフ蚊食鳥

高田祥聖

《入選》

野外演奏コンダクターは月つかみ

田代 草猫

春めくや市立劇場五十歳

栃倉 千江子

初稽古冷えた楽器に息入れる

くま

日記果つわがステージは最終章

原 峯子

おゆうぎ会たっちゃん棒立ち風光る

茨木 ゆき子

野外フェスゴジラの鼓膜雲の峰

堀 たかとも

ナイトジャズ響く新緑の丘よ

あらまみこちゃん

敬老会舞台狭しと踊る母

刈谷陣

ステージの前の声出し雪景色

駒子

月組のブラックジャック冬うらら

姫川ひすい

あらたまのみづ青々と中村座

亀田かつおぶし

青嵐裏通路駆け下袖へ

空豆魚

長台詞覚えられずに山笑ふ

十音

炎天や湖へ飛び立つ鳥人間

金子博文

舞台衣装ピンで止めある二月尽

ルーミー

おそろいのサンタの衣装合唱部

指揮者はひげ付き

幕間に邯鄲のこゑ野外劇

げばげば

縮こまる冬の舞台のお辞儀かな

城ヶ崎文椋

舞台袖くすぶる俺と朧月

イワンモ

客席も思はず歌ふ春の歌

千流

蘭香る一人つきりの舞台袖

岩渕伊織

鯉起し混声合唱やがて激し

山田まめ女

鍵盤の真白く見える文化の日

あやばば

春雷やマリオネットの糸絡む

明拓

行く年を濯ぐ第九のフェルマータ

遠藤玲奈

七人の地蔵の衣装縫ふ夜長

栗田すずさん

ひと呼吸遅れしマイク天高し

春海のたり

【俳句部門 一般の部】《入選》(続き)

のど自慢の予選に臨む白靴よ
初舞台観客五人着ぶくれて
二十四人分の鯛焼楽屋まで
青嵐やセーラー服のギターソロ
春浅しスポットライトの際にいる
四弦の音の重さよ十二月
緞帳のこそこそ笑ふ聖夜劇
伝令の駆けてゆくマウンドは夏
漆黒のタップシューズの刻む春
月光のななめに無観客舞台
春まじか街角ピアノひとり占め
バックステージの円陣声清か
冴返る人を飲み込む舞台袖
堅雪やサクスキースキーの全てへ灯
裾たくし上げ花冷のステージへ
クリスマス練習未完の曲を弾く
薔薇咲くや履きつぶしたるトゥシューズ
ロバ役の太き声音よ春立ちぬ
春惜しむ公園に咲くフラガール
前奏のしづかな呼吸秋の風
汗みどろ額に腕に紙吹雪
すみれすみれラインダンサーたる矜持
制服に白きドーラン秋の夜

石崎京子
宮のふみ
イサク
桜鯛みわ
かつたろー。
シャビ
稲畑とりこ
高橋寅次
とまや
久保田 聡
岩井 壮介
小川野雪兎
川越羽流
高尾里甫
常磐はぜ
寒蛙
三月兎
はぐれ朽餅
まるごといちご
村瀬つち
大黒とむとむ
音羽凧
せとみのこ

【俳句部門 小中学生の部】

《特選》

風邪の子の分まで袖でせりふ読む
かじかむ手静けさの中おす鍵盤

愛生

津軽 健太(TK)

《優秀賞》

冬隣鼓動重なるステージ裏
響く音桜見守るピアノかな
ひらひらとおちる桜とおどる音
ステージに胸の花火も連れていく
はじめての ちょうちよ役 春よこい

札木 真奈美

ファンタジー

メロディー

諸田 和真

ミント

《入選》

いろはちるリリックホール舞台かな
秋の雨音楽会でふりつづく
たのしみだ初ステージだ春のちょう
開演を二段目で待つ音楽会
秋の昼リリックホールピアノひく
初舞台響かぬクラの音梅雨明けず
まちがえてステージ上に西日指す
冬の昼音のカバーの助け合い
拍手うけ潤みライトが朧月
ステージが客でいっぱい冬ざるる
音出ない楽器紹介冬の空
えんそうしステージおりと年のくれ
マーチング成功だった冬の暮
冬の朝輝く舞台は雪のよう

ねこかぶり

ゆうま

ミント

高村 晋平

村田 茜

桑山 央己

おいしいアップルパイ

おむすび

てるこ

伽耶

木村 一星

しんパチ

彩希

臯月うらら

【俳句部門 小中学生の部】《入選》(続き)

ソーラン節ステージでおどる秋樂し ここに立ち思い出めぐる卒業式 卒業式はなれたくない六年生 おどる指せみと私の演奏会 クリスマスピアノの音色プレゼント 冬の昼最後の礼で気がぬける 冬の昼マイクがひびきスタートだ！ 雪まつりきんちょうの中歩いてく 赤とんぼ歌声はずみおどってる 冬が来たそとで歌うよ冬の声 舞台から見上げて笑う朧月 寒雷や笑いをおこせまんざいし ステージのみんなの歌を青星に トンボとぶセリフもとんだ発表会 初雪やピアノを前にふるえる手 冬の朝英語で話すドキドキだ 雪空にやさしいメロディとどけよう 文化の日歌声ひびく体育館 スポットライト 浸かるこおろぎ 木の隙間 秋澄むや霧を晴らしてふるう指揮 舞台からサンタクロース顔だした 冬の日のきれいな音のコンサート 寒い冬ダンスで心をポカポカに 回転は寒きステージ熱くする 秋の音ピアノで思い伝えるよ チアダンス新技お披露目玉の汗 わくはずれヘディングあてた夏の空	あおぞらさん 大久保 なえ 山田ドラエ門 しばちゃん 長谷川 夏美 酒井 梨紗 布川 瑚々 星野 由奈 明るいさん 江口 陸斗 ゆきうさぎ 五十嵐 さあや みゆう 恒吉 永愛 ラム 木本 紗貴 漢字得意 椋 落葉 しゅんの ショートケーキ たいが ようのちゆけぼん まるゆう まなえ 匿名希望 時正
---	---

【ここに川柳部門】

《ブラボー賞》

残雪に六年生の晴れ舞台 卒業の声の追いかけて二部合唱 秋雨や舞台袖まで歌ひびく 早春を前進するのは音の舞 雪踏んで行ったライブで熱くなる 弾き終わり安堵のむこう翳雲 光る推し追ってる私向日葵だ 秋深し『地球星歌』大合唱 クリスマスクララと踊る夢の中	阿部遼菜 あい 流紋寺紗嵐 二福のん 優希 a.k.a. 二國優希 あい 裕光 ひろぎ 美桜
ひとり立つ炬燵のステージ猫が鳴く 子のピアノ音色ともかくドレス映え 大根もい味出てるシニア劇 壇から落ち楽器は無事か？と問う仲間 歌うより立つのがやつと老人会 桃太郎なぜか息子はうさぎ役 桜の木一番きれいに咲く我が子 かつら飛び台詞も飛んで野次が飛ぶ カタカナで覚えた第九意味不明 あとの人カスタネットと言われた日	りん太郎 吉田 紫紅 高野 敏英 山 ミモリ ろんちゃん ごん太 ルーキー なわとび 寒蛙

【にこにこ川柳部門】

《入選》

背中越し感じる視線我れ指揮者

鬼役もママをみつけてにこにこに

漏れたかな？バクバクの旨マイクごし

黒ロング新調しますか痩せますか

気取り足降りる階段踏み外し

演奏会知ってる曲は高評価

あがり症人は好きでも人前は

ピンマイク私のドキドキひろいそう

やっとなり再生したらこの子誰れ

ドキドキは更年期なのか緊張か

ステージに以下同文の十五人

メグの役すれば今だにメグちゃん

この地球（ほし）が人類皆のステージだ

劇場は未来の扉開く場所

子のセリフ両親の方が先覚え

ステージに上がる子よりもあがる親

客席は市松模様withコロナ

客来れば脈が鳴るなりステージ

老コーラス指揮者とピアノ超一流

家庭では言えぬセリフをステージで

ロボットにすればよかった役回り

緊張で頭真っ白顔真っ赤

合唱コンドロップ齧ってさあ出番

隣もか口だけ動く合唱会

初句会頭真っ白顔真っ赤

くまこ

笠原 範子

ふじたよしお

五月晴

上原 修

りくら

ヨシさん

美沢の星

メリちゃん

夢みるドルフィン

小間 貴夫

メグ

ハンチングかとう

竹田秋治

うにどん

よしほ

さんごしよう

さよしば

ののふく

恋さん

あるふおんそ

わっしよいメガネくん。

とっしー

せつつねー

染川染幸

一音目ミスし礼からやり直す

ドキドキはトキメキでなく不整脈

俺熱唱お客は皆んなトイレ行き

馬のアシ忘れ手を振る孫三歳

やり終えた何をやったか覚えてない

指人形舞台裏から顔も出る

古着屋でステージ衣裳選ぶ君

壇上に手を振る妻に我は無し

世の中に孫が立ってるがくげい会

歌詞忘れ一番だけをくり返す

賞品の地酒気になり出でトチる

ちよい役が主役になる演技力

宙を見る飛ばした台詞どこいった

学芸会姫と家臣が今夫婦

人生のピークは園児の発表会

舞台踏みついた度胸とひいき筋

サプライズゲストは「魔物」初舞台

花火師に長岡の空晴れ舞台

アンコール準備してたら客帰る

演奏会終えて本番宴会へ

きらびやかステージ裏の地獄絵図

初舞台見に来た母も一張羅

思い出は推しの顔より前の人

うちの子は赤い靴下どこにいる

観劇の感激しまい主婦直帰

役作り妻が家でも姫口調

ネタは尽き「推し」を暴露の朝礼当番

一斉に親を探すひな段の子ら

凡堵

愚村

白鳥雅敏

大福

あやりよう

市川淑子

アキラ

円山応変

風の旅人

春風

たきるか

さるり

杉原有香

減点パパ

みんみん

中年やまめ

のさつく

老い猫

春風

つべる

金天組の共犯者 すみれ

ドングリ

カワセミ

石塚彩楓

咲まこ

山宗雲水

(なし)

(なし)